

2012 年 7 月 31 日
郵便局株式会社 北海道支社

オリジナル フレーム切手セット

『タンチョウ・阿寒湖のマリモ特別天然記念物指定 60 周年記念』の販売開始

郵便局株式会社 北海道支社（北海道札幌市中央区、支社長 小野寺 敦子）は、下記のオリジナルフレーム切手セットを販売します。

このオリジナル フレーム切手セットは、今年、特別天然記念物指定 60 周年を迎えるタンチョウ・阿寒湖のマリモを題材としたもので、釧路市近郊および札幌市近郊の郵便局（簡易郵便局は除く）で限定販売します。

また、本フレーム切手セットの販売を記念して贈呈式を開催します。

記

1 切手セットの概要

名称	タンチョウ・阿寒湖のマリモ特別天然記念物指定 60 周年記念	
販売開始日	2012 年 8 月 3 日（金）	
販売セット数	5,000 セット（予定）	
販売郵便局	釧路市近郊 （68 局）	釧路市、釧路町、標茶町、弟子屈町、白糠町、厚岸町、浜中町、鶴居村の全郵便局 ※簡易郵便局は除きます。
	札幌市内等 （8 局）	札幌中央局、札幌大通公園前局、札幌大通局、札幌駅パセオ局、北海道庁赤れんが前局、札幌中央市場前局、新千歳空港内局、小樽堺町局
セット構成	1 シート 50 円切手×10 枚、解説書×1 枚	
販売単位	セット単位で販売します。	
販売価格	1 セット 1,000 円	

2 切手デザイン 別添のとおり

3 贈呈式の内容

実施日時	2012 年 8 月 3 日（金）10:00～10:10
場所	釧路市阿寒町阿寒湖温泉 まりもの唄歌碑前
受贈者等	受贈者：マリモ特別天然記念物指定 60 周年記念事業実行委員会 会長 松岡 尚幸（まつおか ひろゆき）様 釧路市役所阿寒生涯学習課 マリモ学芸主幹 若菜 勇（わか な いさむ）様 贈呈者：弟子屈郵便局長 藤原 将男（ふじわら まさお）

4 その他

本フレーム切手セットは、通信販売を行いません。販売郵便局の窓口でお買い求めください。

以 上

【報道関係の方のお問い合わせ先】

郵便局株式会社北海道支社企画部（総務・広報担当）
電話：（直通）011-214-4010 （FAX）011-214-4404

【お客さまのお問い合わせ先】

郵便局株式会社北海道支社営業本部（物販担当）
電話：（直通）011-214-4184

「別添」

【フレーム切手デザイン】

神秘の大自然

タンチョウ・阿寒湖のマリモ 特別天然記念物指定60周年記念

協力：マリモ特別天然記念物指定60周年記念事業実行委員会



湖底に眠る阿寒岳



マリモの群生



アイヌ古式舞踊 船の舞



大空を翼うタンチョウ



大空を翼うタンチョウ

NIPPON 50



タンチョウのバトル

NIPPON 50



阿寒センターのマリモ

NIPPON 50



湖底に眠る阿寒岳

NIPPON 50



タンチョウの求愛

NIPPON 50



タンチョウの休息

NIPPON 50



マリモの群生

NIPPON 50



タンチョウの子育て

NIPPON 50



マリモ群

NIPPON 50



タンチョウの親子愛

NIPPON 50

- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

凸版印刷株式会社



タンチョウ・阿寒湖のマリモ 特別天然記念物指定60周年記念 フレーム切手解説書

※「フレーム切手」は郵便事業株式会社の登録商標です

◎タンチョウとは

古くから伝わる民話の中にも登場するタンチョウは、江戸時代まで各地でその姿を見ることができました。明治に入り個体数が減少し、全く姿が見られなくなりました。大正13年、十数羽のタンチョウが釧路湿原に確認されて以来、地元の方々の努力によって保護活動が進められ、昭和27年、国の特別天然記念物に指定されました。

◎タンチョウの生息状況

タンチョウは日本のほかロシアのアムール川流域や中国の東北部に1,400羽ほどが生息しています。わが国では北海道東部に1年中見られ、ツルのなかまではただ1種日本で繁殖しています。

昭和27年以来、毎冬に生息数の一斉調査が行われ、平成22年度の調査では1,243羽を数えました。

◎タンチョウの四季

3月なかばになると、釧路市阿寒町や鶴居村の給餌場から各地の湿地帯に移動し、ヨシを使って巣づくりをはじめます。

巣ができると、長さ10cmくらいの卵を2個か1個産みます。卵は親が交代で抱き続け、約1か月でヒナが生まれます。

ヒナは約100日で親と同じくらいの大きさになり、飛べるようになります。

冬に入ると、大部分のタンチョウは給餌場に集まってきます。

◎タンチョウをまもろう

冬にタンチョウのエサ不足を補うため、北海道東部の各地で人工給餌が行われています。これによって冬のエサ不足の心配が減りました。しかし、ツルが子育てするには広い湿原が必要で、また寒い冬を越すためには凍らない川が必要です。しかし、埋め立てや開発などにより、ツルにとって好ましい環境はどんどん失われています。湿原や河川などの自然を守っていくことがツルを守ることになるのです。

また、タンチョウは神経質な鳥です。おどかしたり、タンチョウが住むところに、すかさずと入っていかないように注意することが必要です。



◎マリモとは

マリモは、水中で生活する緑藻類の一種です。

阿寒湖のマリモは、1897年、川上瀧彌によって発見され、その丸い形から、まりも（毬藻）と名付けられました。

1921年に国の天然記念物、1952年には特別天然記念物に指定されて、その保護が図られるようになりましたが、1997年に公表された国のレッドリストでは、絶滅の危険性が最も高い絶滅危惧Ⅰ類に分類されています。

◎マリモの生息場所

マリモは、北半球の高緯度地方を中心に分布し、日本国内では、阿寒湖以外にも、本州や北海道の十数カ所の湖沼で確認されています。

その中でも、球状マリモが群生する湖は、日本では阿寒湖しかありません。球化をはじめとする生活状態の多様化には、様々な環境要因が関与しており、阿寒湖だけがこうした環境要因のすべてを備えているからだと考えられています。



◎マリモの中はどうなっているのか

マリモの断面を見てみると、糸状の藻が放射状に並んでおり、藻が中心から外に向けて生長しながら球体に発達したことがわかります。

◎マリモはどのように丸くなるのか

1. 大型の球状マリモが波の動きなどによって壊されると、たくさんのくさび形の断片を生じます。
2. この断片は再び生長をはじめ、小さな楕円状の集合に発達します。
3. さらに生長すると、集合の形はだんだん球体に近づいてきます。
4. 大型化したマリモは、湖水の流れによって徐々に沖合の深所に動かされます。水深が大きくなると湖底に届く光が不足するので、藻の一部が枯れ、やがて球体は崩れてしまいます。
5. 大型マリモは、浅瀬に運ばれることもあります。球体が崩壊してしまうのは沖合に移動した場合と同じですが、浅瀬は光が豊富なので、再び生長をはじめることができます。

